

グラフで見る！下水道の決算（令和3年度）

1 概 況

（1）総括事項

本市の下水道事業は、昭和28年から建設事業に着手し、下水道の目的・役割である「快適な生活環境の確保」「浸水被害の軽減」「公共用水域の水質保全」に努めています。

本年度は、未普及地域の解消に向けて污水管の整備を進めるとともに、雨水の排水及び浸水被害を軽減するために雨水管の整備を継続して実施いたしました。

（業務の状況）

本年度末の処理区域内人口は 56,255人で、前年度比 54人（0.1%）の減となり、行政区域内人口に対する普及率は 71.7%となっています。また、水洗化人口は 53,756人で、前年度比 1人（0.002%）の増となり、水洗化率は 95.6%となりました。

年間汚水処理水量 6,924,157^m³に対し、年間有収水量は 6,087,837^m³で、有収率は 87.9%となりました。

（事業収支）

収益的収入の決算額（税込）は、1,932,025,268円となりました。主なものは、下水道使用料 978,980,272円、雨水処理負担金 235,030,750円、他会計補助金 51,584,709円、長期前受金戻入 531,176,854円などです。

収益的支出の決算額（税込）は、1,781,092,413円となりました。主なものは、処理場費 408,442,519円、減価償却費 927,997,914円、企業債利息 131,879,582円などです。

前年度繰越分を含めた資本的収入の決算額（税込）は 1,027,920,650円となりました。内訳は、企業債 402,600,000円、他会計負担金 20,993,981円、工事負担金 8,064,650円、他会計補助金 255,602,019円、国庫補助金 340,660,000円となっています。

前年度繰越分を含めた資本的支出の決算額（税込）は 1,535,379,593円となりました。内訳は、建設事務費 40,590,139円、管渠ほか建設改良費 835,753,814円、固定資産購入費 365,750円、企業債償還金 658,669,890円となっています。

資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 507,458,943円は、過年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 10,936,499円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 21,032,433円、減債積立金 179,646,417円、過年度分損益勘定留保資金 116,942,573円、当年度分損益勘定留保資金 178,901,021円で補てんしました。

当年度の事業収支で消費税及び地方消費税を除いた損益取引では、下水道事業収益の決算額（税抜） 1,834,715,534円に対し、下水道事業費用の決算額（税抜）は 1,727,938,811円となり、106,776,723円の純利益を計上しました。

また、汚水処理に係る1m³当たりの費用を示す汚水処理原価は、143円96銭となり、使用料単価 146円20銭を 2円24銭下回る結果となりました。

（建設改良事業の概要）

建設改良事業の主な概要は下記のとおりです。

①汚水管きよ整備事業（未普及対策事業）

土地区画整理 事業関連	下水道工事（笠縫）1か所、下水道工事（岩北）2か所、下水道工事（岩南）6か所、下水道工事（双南）1か所
----------------	---

②雨水管きよ整備事業（浸水対策事業）

平成30年度から5年間の計画で進めている笠縫雨水幹線建設工事（総延長 831m）において、令和3年度末時点で 600mの整備が完了しました。

③その他

社会資本整備総合交付金の有効活用等により、飯能市浄化センター耐震工事委託ほか1件の事業が翌年度へ繰越しとなりました。

（2）経営指標に関する事項

令和3年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は前年度比 3.5ポイント減の 106.7%となりましたが、健全経営の水準とされる 100%を上回っています。また、経費回収率は前年度比 1.2ポイント減の 101.6%となりましたが、汚水処理に係る費用を下水道使用料で賄っている状況とされる 100%を上回っています。

一方、償却対象資産の減価償却の状況を示す有形固定資産減価償却率は前年度比 3.4ポイント増の 10.8%となり、法定耐用年数を経過した管渠延長の割合を示す管渠老朽化率は前年度比 1.7ポイント増の 15.0%となりました。昭和28年から建設事業に着手していることから下水道施設の老朽化が進んでいます。現在、土地区画整理事業地内を中心に汚水管きよ整備を進めていますが、老朽化対策については、平成30年度に策定した飯能市下水道ストックマネジメント計画に基づき、計画的に取り組んでいます。

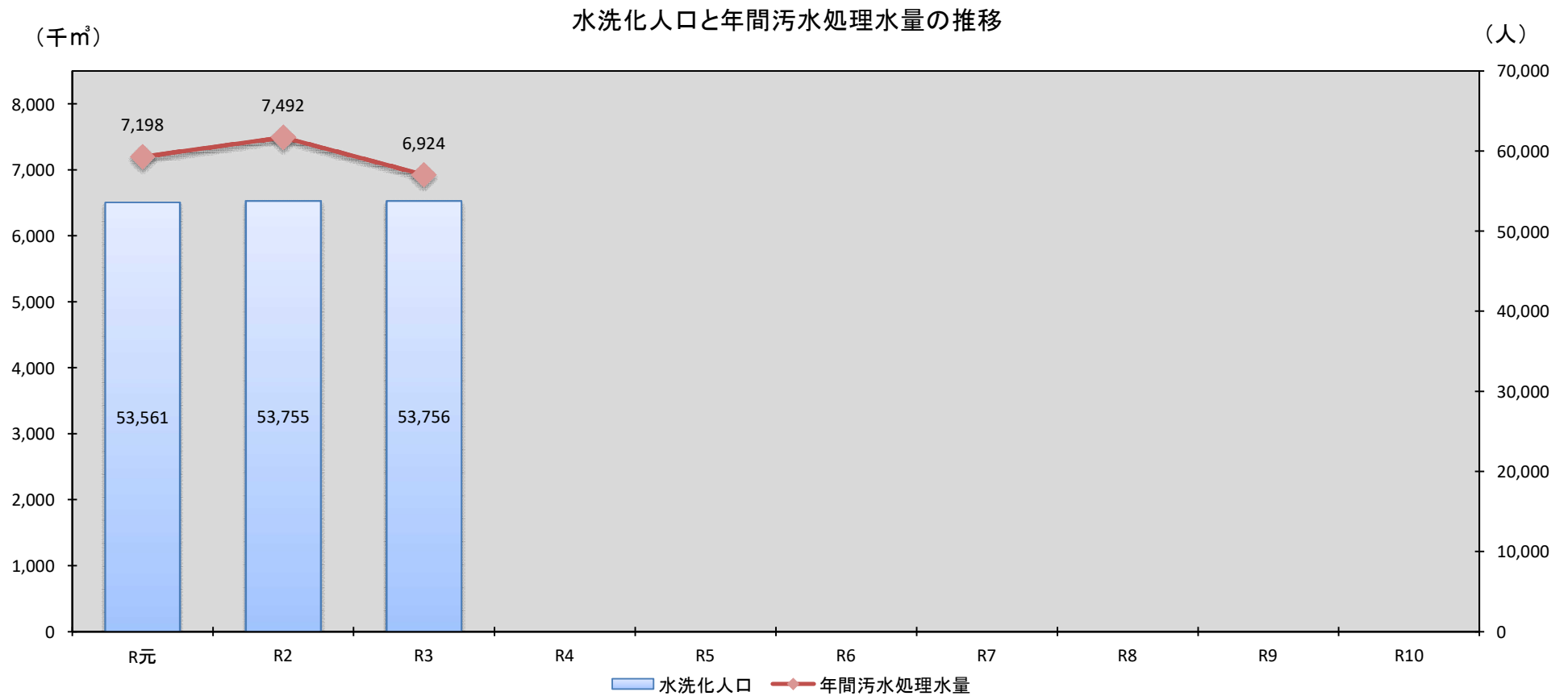
■ 水洗化人口と年間汚水処理水量 ■

●水洗化人口とは・・・●

公共下水道の処理区域内に居住し、公共下水道を使用している人口をいいます。

●年間汚水処理水量とは・・・●

公共下水道に流れた汚水の処理水量をいいます。



■ 年間汚水処理水量・年間有収水量・有収率 ■

●年間汚水処理水量とは・・・●

公共下水道に流れた汚水の処理水量をいいます。

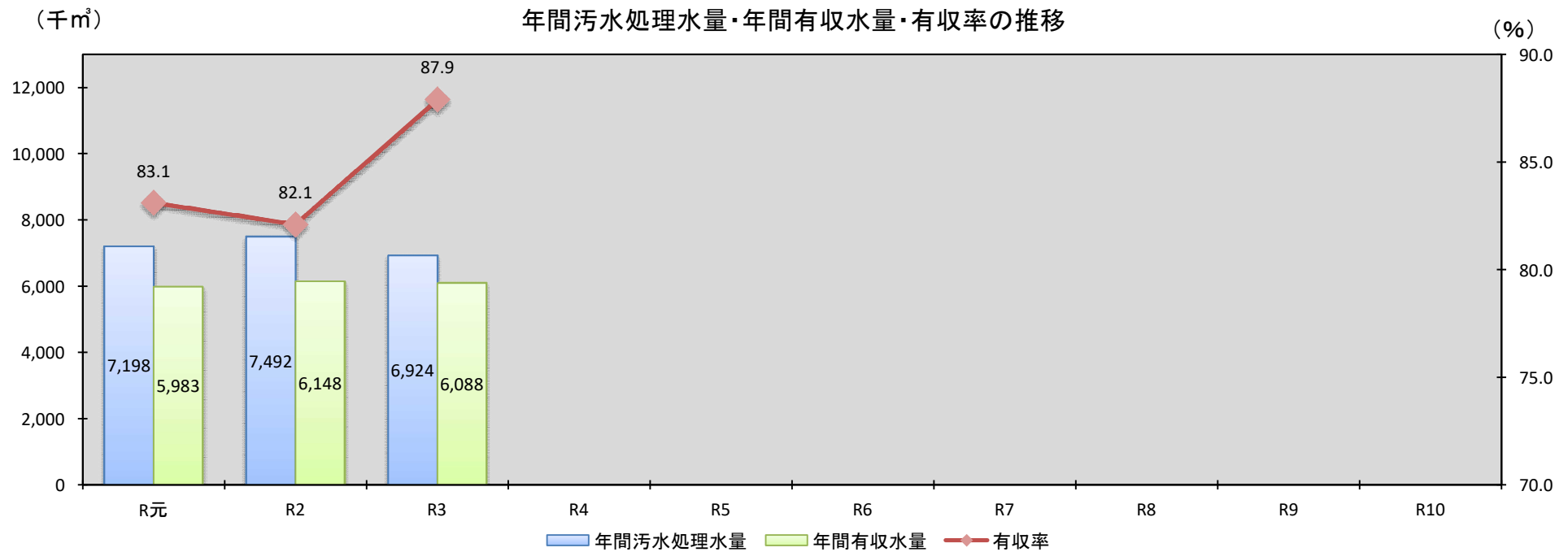
●年間有収水量とは・・・●

公共下水道に流れた汚水のうち、不明水を除いた使用料収入の対象となる水量のことをいいます。
不明水の原因として、管渠の老朽化やマンホール等からの浸水等があります。

●有収率とは・・・●

公共下水道に流れた汚水のうち、使用料収入の対象となる水量の割合です。

有収率＝有収水量÷年間汚水処理水量×100



■ 汚水処理原価と使用料単価 ■

● 汚水処理原価とは・・・●

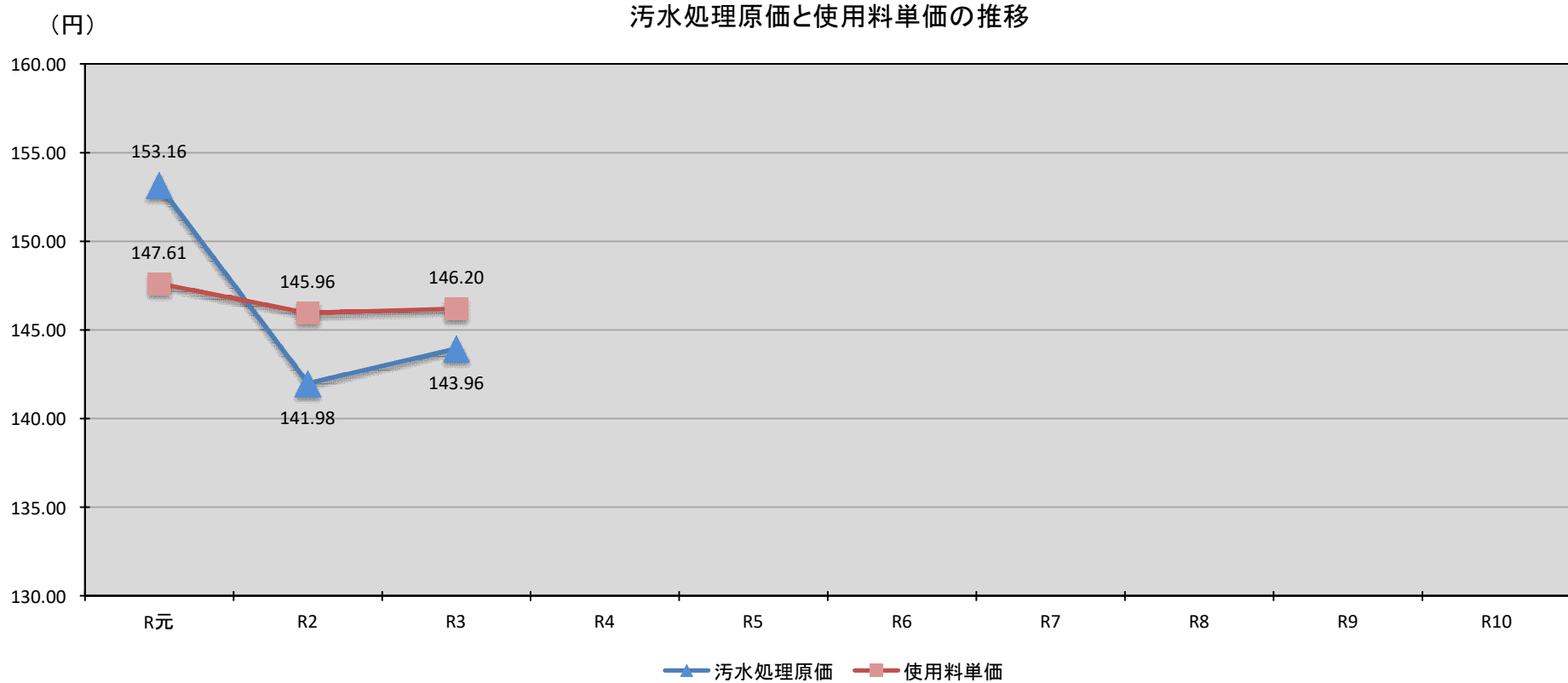
公共下水道に流す汚水の処理費用1m³あたりについて、どれだけ費用がかかっているかを表しています。

汚水処理原価＝汚水処理費÷年間有収水量

● 使用料単価とは・・・●

公共下水道に流す汚水の処理費用1m³あたりについて、どれだけ収益を得ているかを表しています。

使用料単価＝使用料収入÷年間有収水量

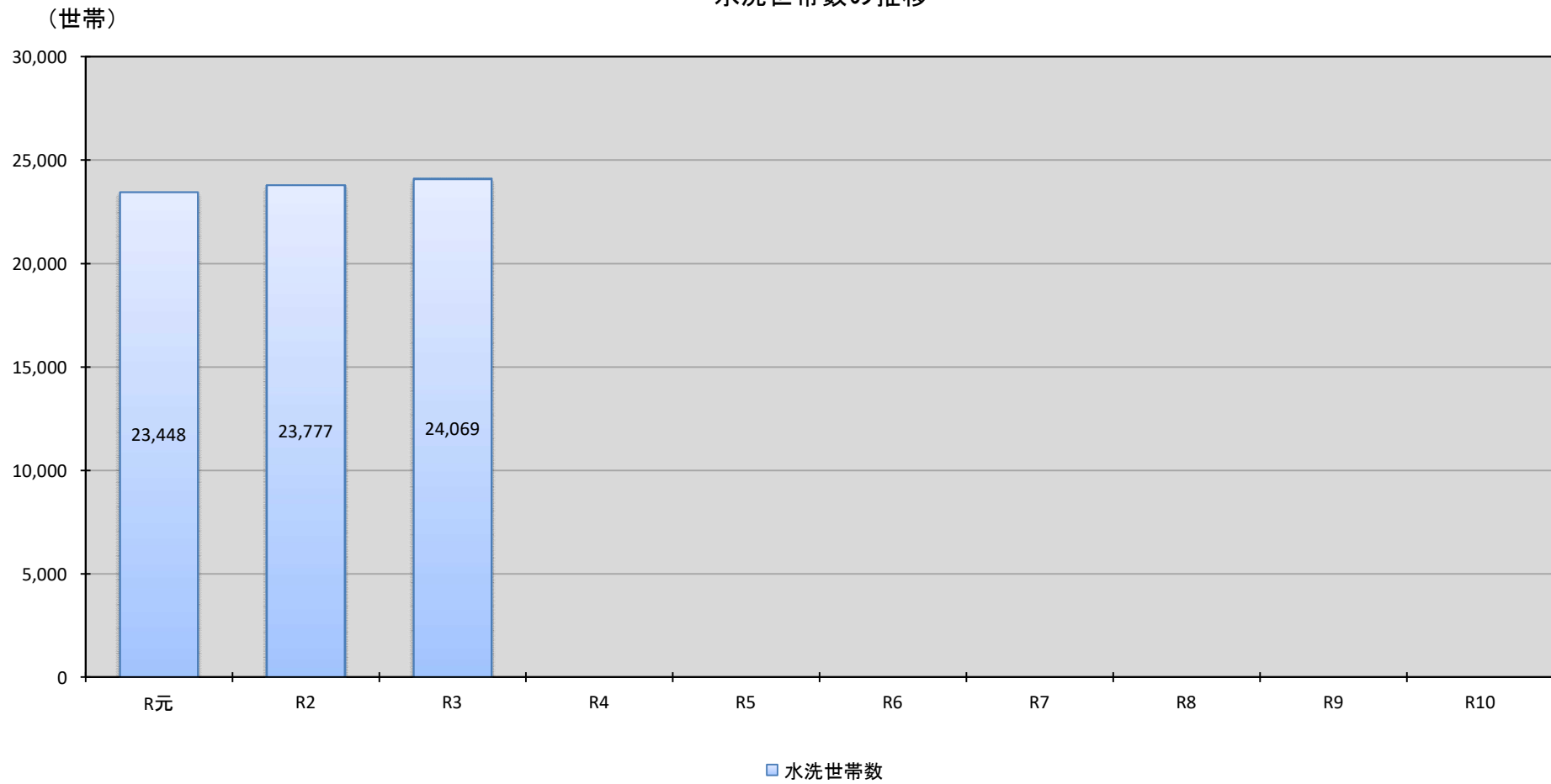


■ 水洗世帯数 ■

● 水洗世帯数とは・・・●

公共下水道の処理区域内に居住し、公共下水道を使用している世帯数をいいます。

水洗世帯数の推移

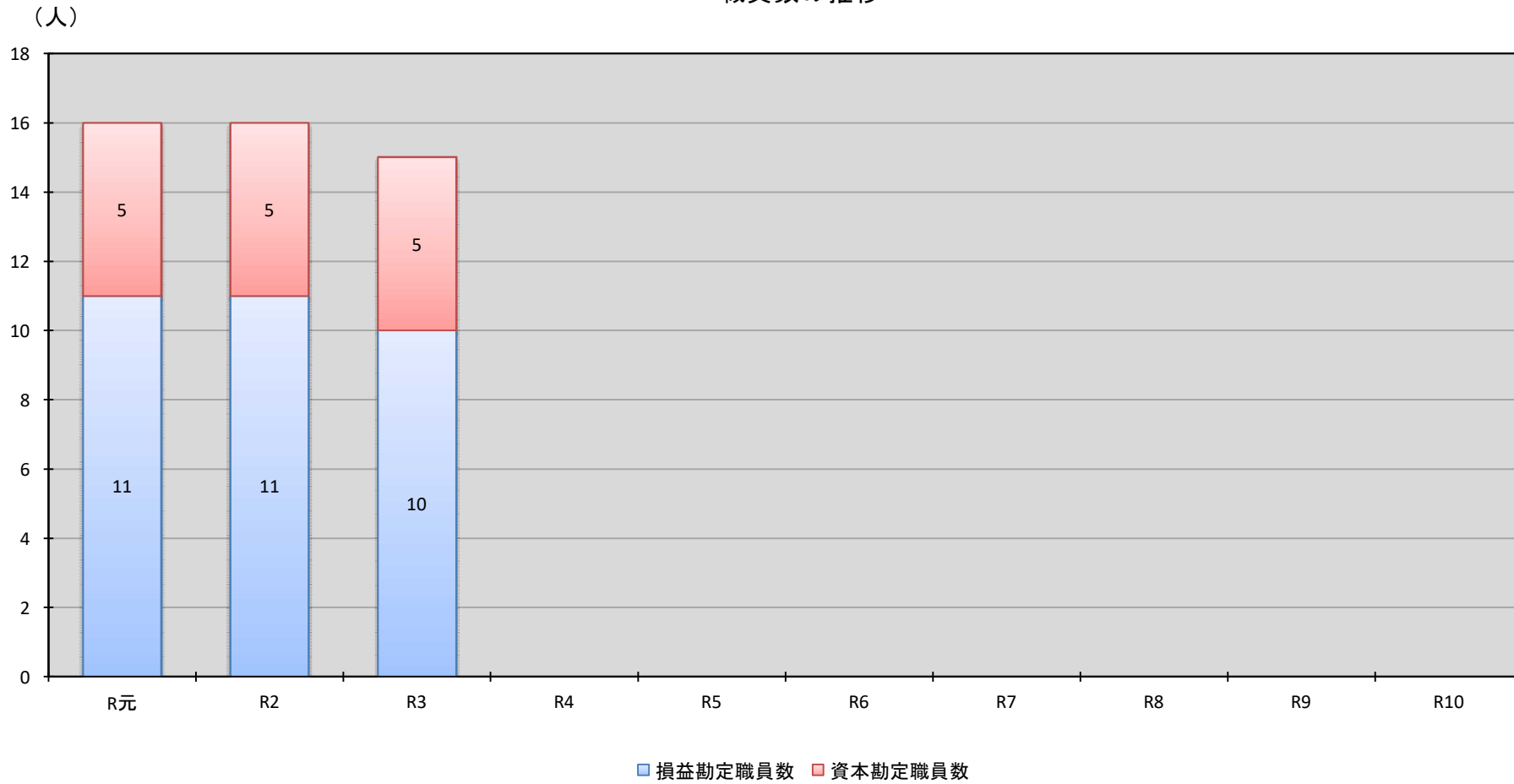


■ 職員数 ■

●職員数の推移●

下水道事業では事業効率化を図り、適正な職員数の確保に努めています。

職員数の推移



■ 企業債(借入資金) ■

●企業債(借入資金)とは・・・●

公共下水道の管渠を布設するなどの建設改良事業に要する資金に充てるための借入金のことをいいます。

●企業債残高とは・・・●

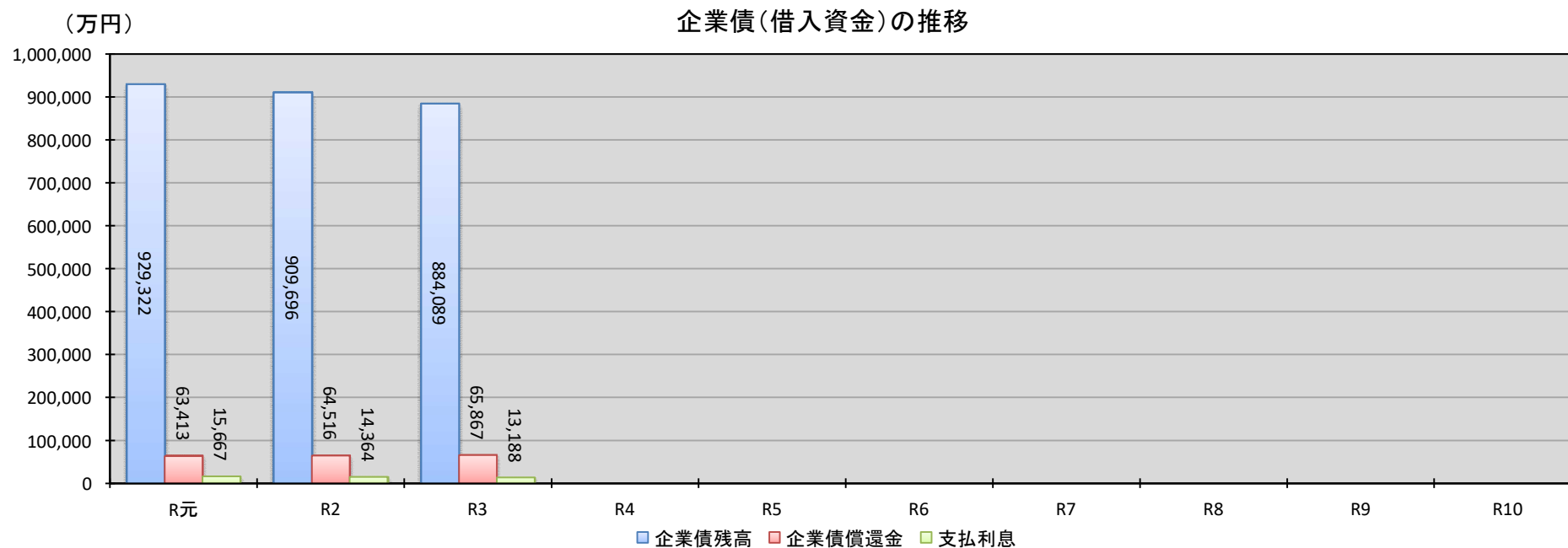
年度末において、まだ返済していない借入金の合計残高のことをいいます。

●企業債償還金とは・・・●

その年度に返済した借入金の元金のことをいいます。

●支払利息とは・・・●

その年度に支払った借入金の利息のことをいいます。

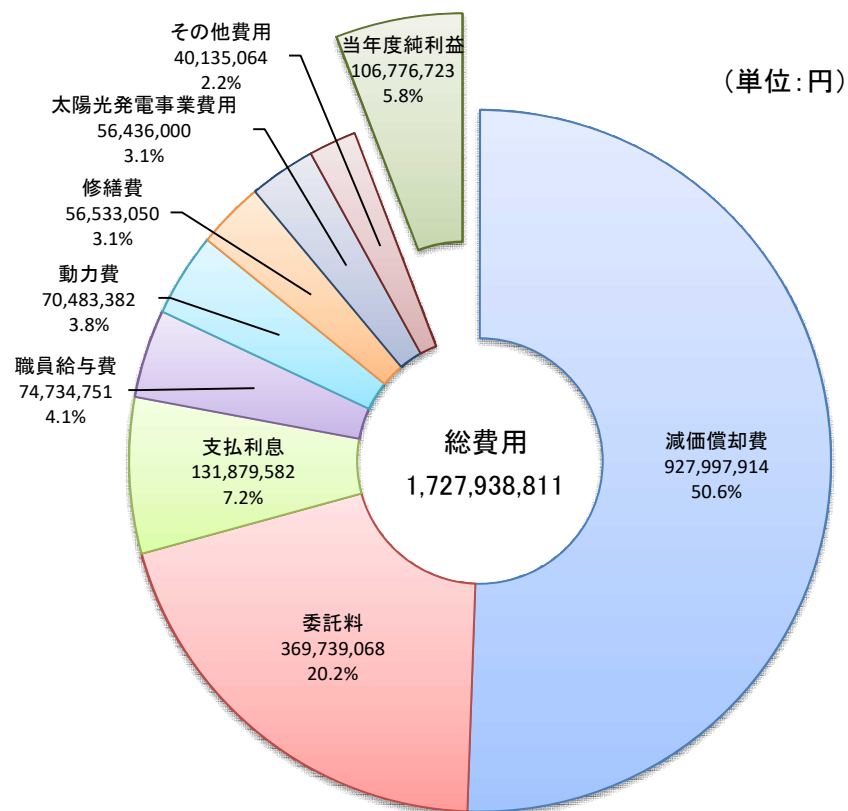


■ 収益的収支の状況(損益計算に関する収益・費用の状況)【税抜】 ■

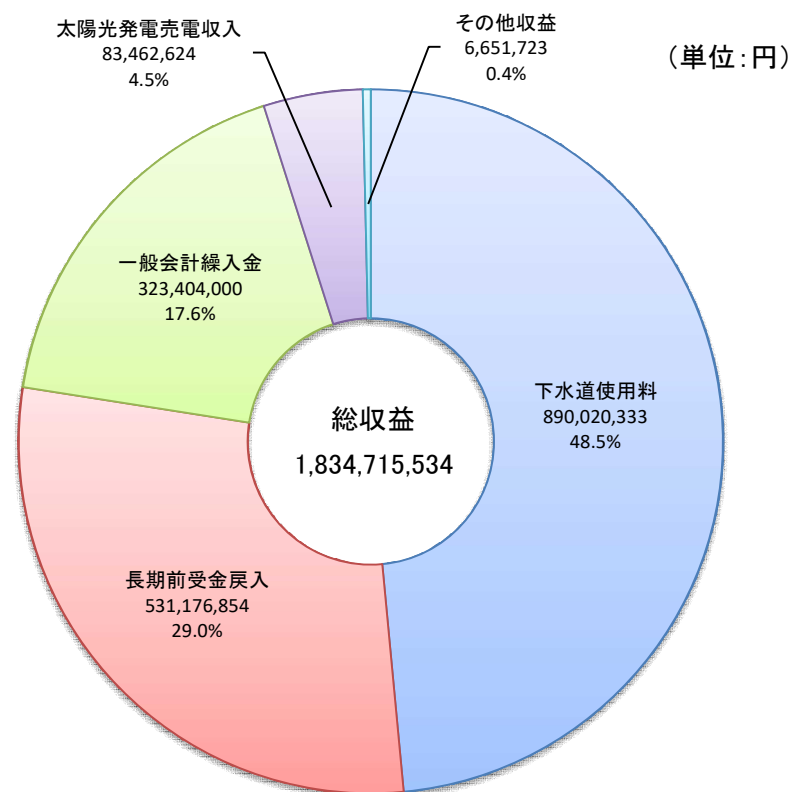
●収益的収支とは・・・●

予算事項のひとつである収益的収入及び支出で、下水道事業の経営活動によって発生する収益とこれに対応する費用をいいます。

【費用】



【収益】

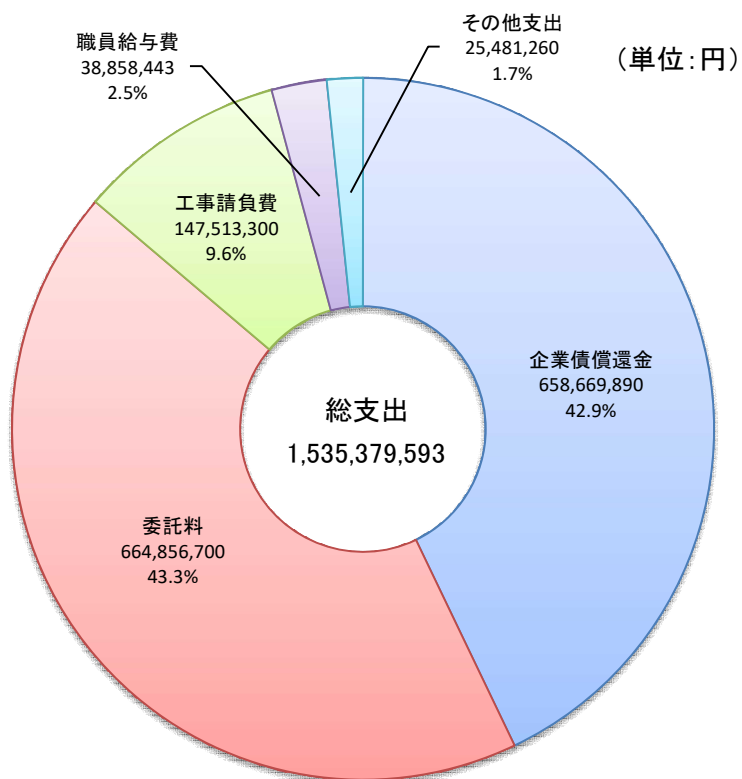


■ 資本的収支の状況(建設改良に関する収支の状況)【税込】 ■

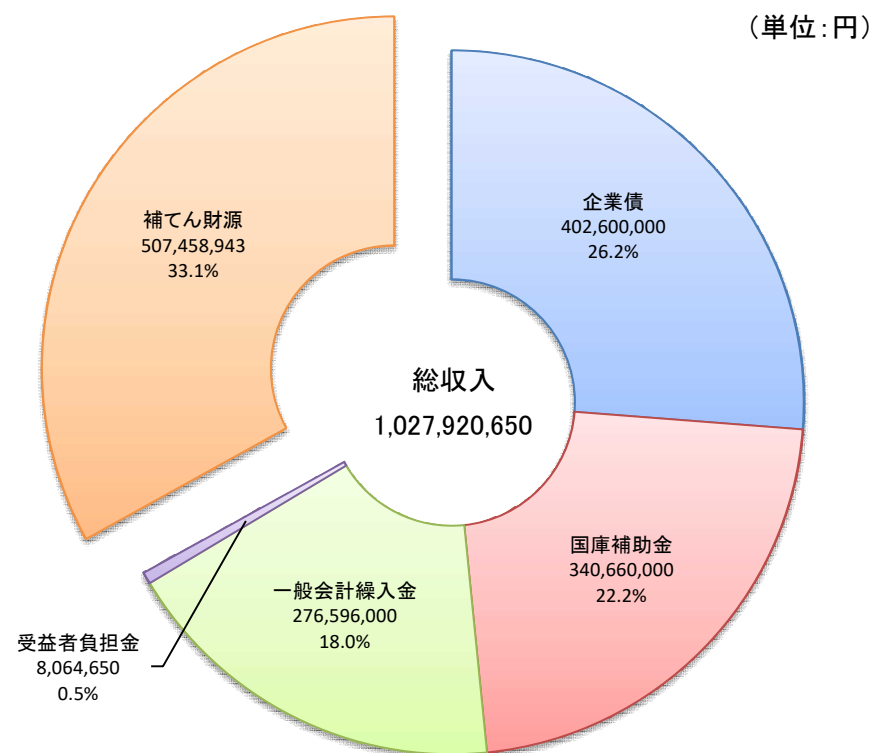
●資本的収支とは・・・●

予算事項のひとつである資本的収入及び支出で、将来における経済活動に備えて行う建設改良や、この建設改良に係る企業債の償還元金等の支出と、その財源となる収入を表しています。不足する額は、内部に貯えられた資金など(補てん財源)で補われます。

【支出】



【収入】



■ 費用と収益【税抜】 ■

●費用とは・・・●

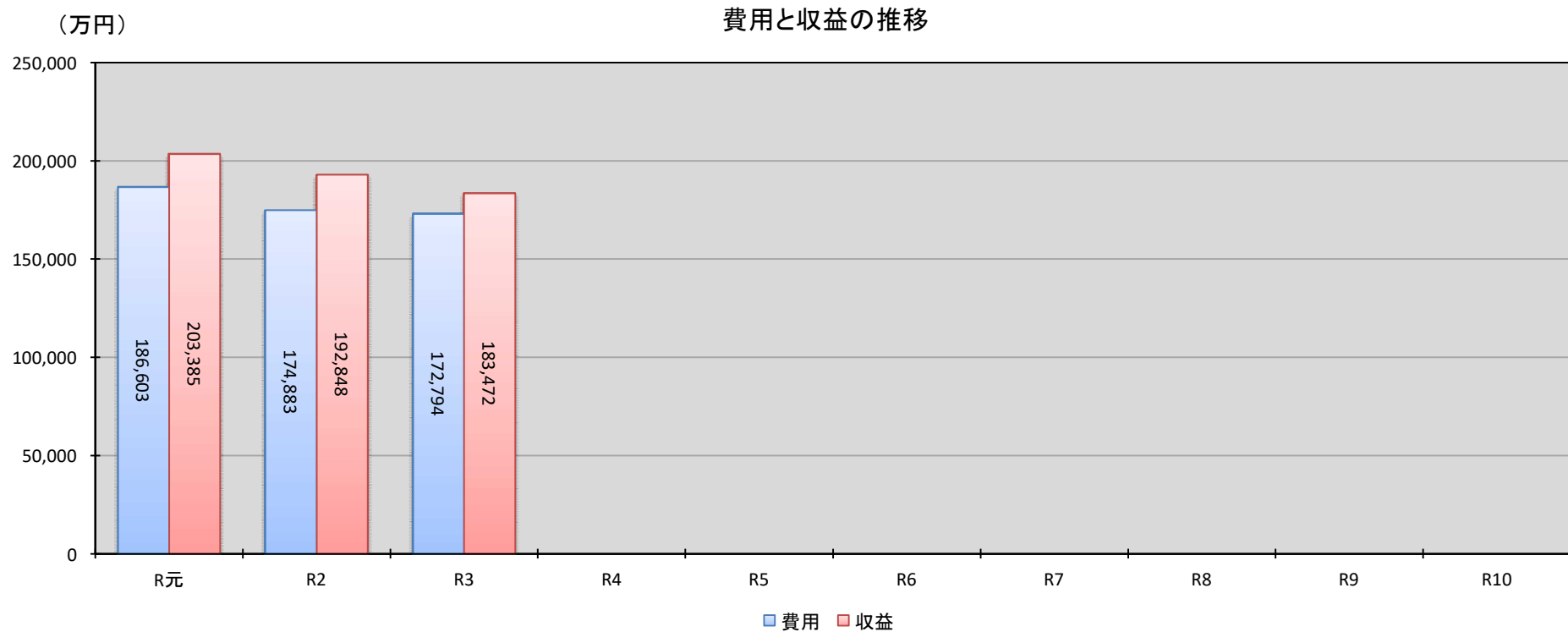
収益を得るために必要となった支出です。

●収益とは・・・●

下水道事業の経営活動から生じる収入です。

●当年度純利益とは・・・●

1年間に計上される全ての収益から全ての費用を引いた額です。

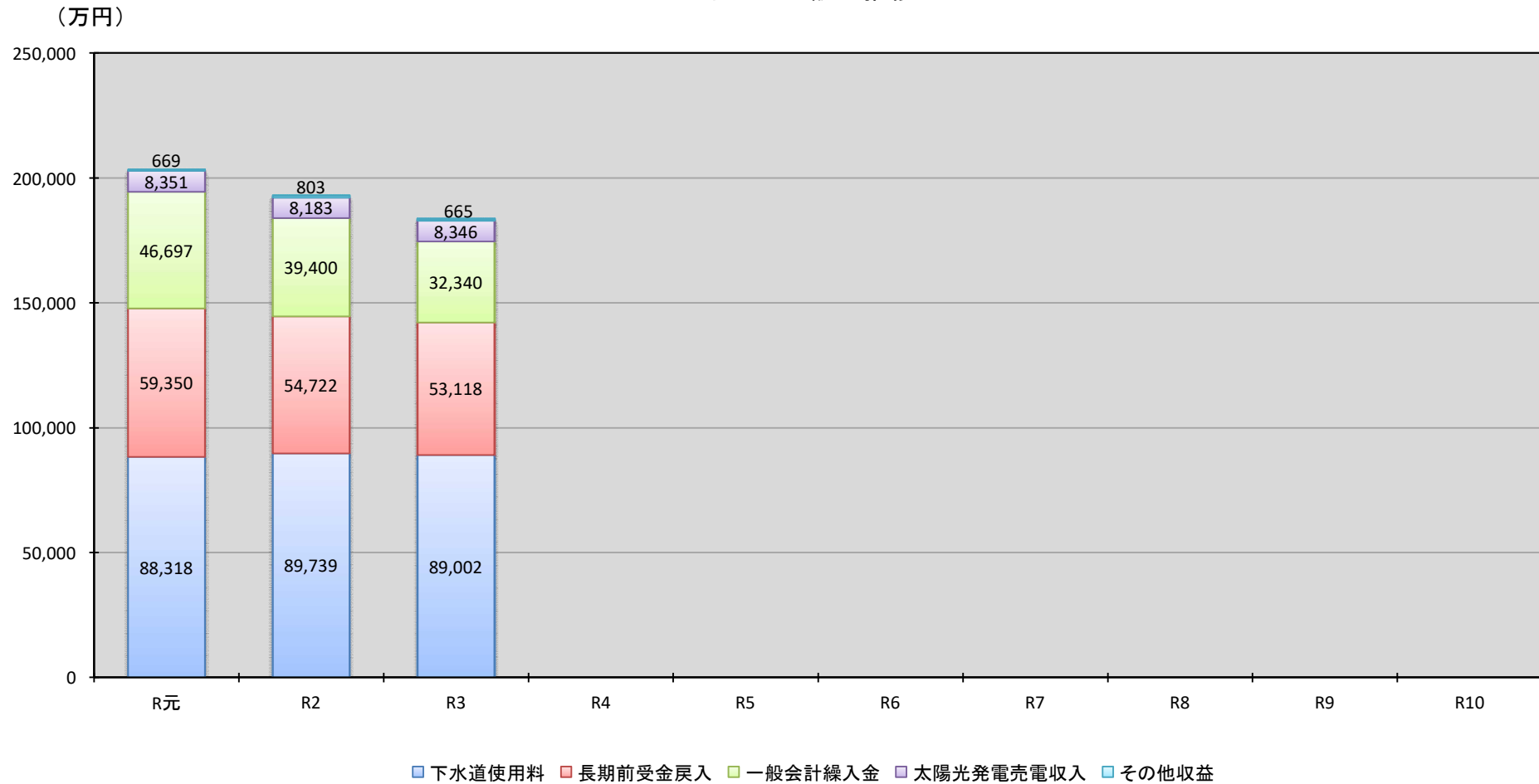


■ 収益の内訳 ■

●収益の内訳●

総収益の主な構成は下のグラフのとおりです。

収益の内訳の推移



■ 費用の内訳 ■

●費用の内訳●

総費用の主な構成は下のグラフのとおりです。

費用の内訳の推移

